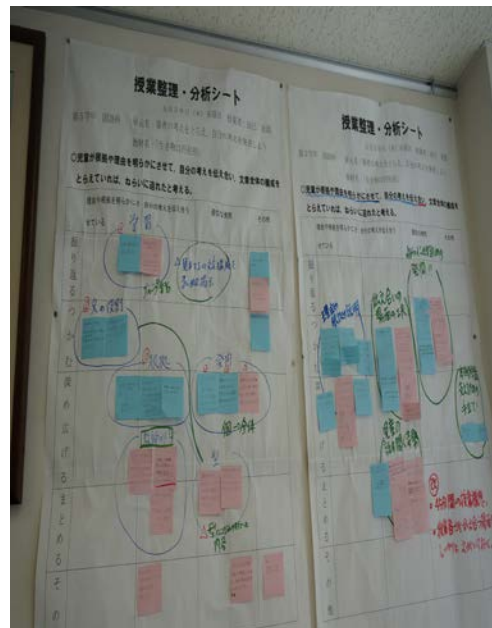
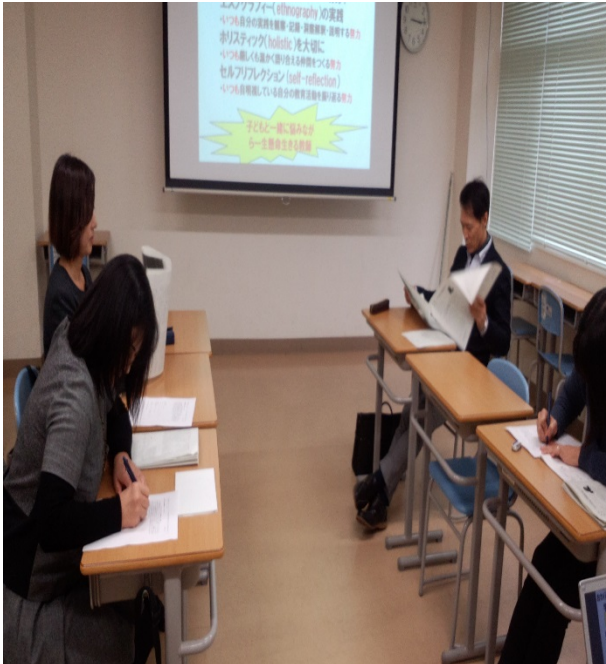


教師が変われば子どもも変わる

11月26日（土）に「現代的学校教育の課題解決シリーズ 2016」の学び合う仲間による教員研修リレー講座の第10回が行われました。今回は、本大学教授の黒羽正見（教師教育）先生による、「教師が変われば子どもも変わる」と題して、教師の暗黙知に焦点を当てながら、子どもの内面世界である自己概念を耕すための方法を学び合いながら検討しました。教師の教育実践を制御する暗黙知をみえる化し、気づきを深めていかない限り、本質的な解決には至らないことや子どもへの日々のかかわり方の大切さについて熱心に講義されました。



<参加者の感想から>

- 自分自身のもつ暗黙知を振り返り、見直すことは、現場の教員にとって、自分自身の教師としての在り方をも見直すことになるという点で、厳しいが大切なことであると実感できた。そして、その難しさも感じた。子どもの前に立つ教師であるためには、避けては通れない課題である。
- 子どもが変わった。この現実と対応できない教職員が現任校でも複数認められる。私自身対応できているかと問われれば、全く自信がない。しかし、子どもを教えていくためには、子どもに原因を求めず、自分自身の手立てを改善していくしかない。そのことを諦めず、根気強くさりげなく、上手く機会をとらえて、同僚に伝えていきたいと再認識させていただいた。とても有意義な時間でした。
- 暗黙知という言葉が教えていただきました。今まで聴いたことがありませんでした。そしてこれが教育現場で意識しなければならない大切なことだと思いました。これは生育歴にも大きくかかわることだと思います。その人の性格や育てられ方により若くとも自然と温かさや謙虚さが身に付いている人もいますが、そうでない人、それに気付いていない人に気付いてもらうのは大変難しいことだと思います。でも、組織をよりよいものにするためには、避けては通れない概念だと思いました。
- 変わるのではなく、教師が自ら変わっていけるようにサポートしていきたいです。そのためにも、自分自身がやるべきことが少し分かったような気がします。